

決算短信に対するXBRL適用と投資家による情報処理 —適用前後の株価ドリフトの分析—

金 奕 群

目 次

- | | |
|--------------|---------|
| 1. 研究背景 | 4. 分析結果 |
| 2. 仮説構築と先行研究 | 5. 終わりに |
| 3. 研究デザイン | |

本稿では、決算情報に対するXBRL適用が投資家による情報処理を効率化させたかを検証した。財務諸表情報にXBRLを適用した後、利益サプライズと長期的な株価ドリフトの関係が弱まったことが確認され、業績予想を勘案した追加分析においても同様であった。この結果は、決算情報にXBRLを適用することによって、投資家の決算情報に基づく価値評価の修正がいち早く行われ、決算情報に対する情報処理を効率化させたことを示唆している。

1. 研究背景

東京証券取引所では、XBRL (eXtensible Business Reporting Language) が上場会社の適時開示情報の正確性・信頼性を高めるとともに、投資者の利便性を大幅に向上させるものであるという考え方にに基づき、XBRL形式で決算情報を配信している。XBRLとは、各種事業報告用の情報（財務・経営・投資などの様々な情報）を作成・流通・利用できるように標準化されたコンピューター言語である（注1）。これによって、従来の媒

体と比べて、電子的な事業報告書の作成や流通・再利用を容易に行うことが可能になった。

決算短信情報は、取引所が運営しているTDnetを通じて公表される。XBRLの適用対象となる決算短信情報にはサマリー情報と財務諸表情報があり、それぞれ異なる時期にXBRLの適用対象となった。サマリー情報のタクソノミ（注2）は東京証券取引所により開発され、財務諸表情報については金融庁が開発したタクソノミとの共通化を図っている。一般事業会社の決算短信サマリー情報などはXBRLでの授受・配信が2008年7月より開



金 奕群（きん えきぐん）

早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程在籍。2017年9月早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了。現在、XBRLによる財務報告に関する実証研究を行っている。